

■ 2019.09.28 スポーツ委員会議事録

■ 場所：川崎市 サンピアンかわさき 第5会議室

■ 時間：10：00～17：00

■ 参加者（敬称略）：飯盛、竹澤、中口、牧、太田、新膳、野上（記）、野上美月

■ 1. 公認大会について

・日程が複数日になる大会の公認について

- ・佐賀市チャレンジシリーズ6戦 公認大会を勧める 公認料は毎回数分支払う  
→1大会として認める 1回

・大会は独立していない 申し込みは一枚

・6戦ごとにスポンサーあり

・1機千円の公認料 30機に各大会を適応すると多くなりすぎる

■ 企画局とのリンク 琵琶湖と渡良瀬の風は大会カレンダーに問い合わせは載せていない

<窓口> が明確になっていないため載せられない

・公認申請書に<窓口>を載せてほしいという依頼がある

・大会の期間は？ 11月～1月 土曜か日曜に1フライト6日

・同じ場所で開催

・パイロットチームは同じ、パイロットは4人まで

・エントリーフィーはチャレンジシリーズ通し

・場所は違って良いのでは？ トータルとしての結果があれば良いのでは？

・公認について、独立で出すのか？ 個別で出すのか？

パイバルの使用は？ → 10個のみ

・シリーズが他のエリアにあったら？ 送付のタイミングが難しくなる

・現状は1大会に貸している 複数の大会が重なるとそういう問題もある

問い合わせ先が一カ所になっている

・地域性については、決める必要は無いのか？

■ シリーズ全体でエントリー

・グランプリエントリーにエントリーしていないチームが公認料の徴収から漏れてしまう

<佐賀のチャレンジシリーズは途中エントリーフィーは認めない>

・例えば他の地域で開催する場合、個別の独立したエントリーを行っているか？ ということが判断基準になる

・報告書にシリーズとしての結果が出てくる

・活性化することを応援したい

・タスク番号の連番は必要無いのでは？ → 必要無い

■ 2. 世界選手権選手選考について

World

2020 スロベニア

2022 トルコ (WAG内)

2024 ○

Women

2020 ポーランド

2021 オーストラリア

2023 ○

Jr

2021 未定

2023 ○

■ いままで3大会が同じ年に開催だったが2021年から調整が入り、偶数年と奇数年に分かれた

・スロベニア 各国2枠→3枠になっている？ → <2枠>

・選考順は第4条3項から

2019 日本選手権1位	該当なし	
2018 日本選手権1位	藤田	1
2019 NRS1位	未定	2
2018 NRS1位	(藤田)	
2019 日本選手権2位	該当なし	
2018 日本選手権2位	須江	3
2019 NRS2位	未定	4
2018 NRS2位	飯盛	5
2019 日本選手権3位	該当なし	
2018 日本選手権3位	上田諭	6

2019 NRS3位	未定	7
2018 NRS3位	佐藤	8

■ 高島さん提案の日本代表の強化について

- ・選考基準の見直し案について
  - 2020の選考は従来通り（ルールに基づく） 変えるならば2022からか
- ・ナショナルチームを作りたいなどの話がある
- ・選考12月から大会8月までに時間が無い もう少し連携をとりたい
- ・気象チームをクラウドファンディングで資金を集めたい
- ・選手としてはどれぐらいがありがたいのか？
  - 連携としては早く決まった方がよい
  - 勢いがあるメンバーを選ぶのは今の方式が良い
- ・連携は早く選出されたとしても、それで連携が高まるものではないのでは？
- ・ログータスクの練習は有効
- ・サポートについては、機材輸送についての手配が一番サポートになるのでは
- ・スポーツ委員会としての意見をまとめる必要がある
- ・世界選手権の上位に入ることが会員増につながるのか？
  - 違うやり方があるのでは？ 認知度を高めるには。
- ・ランチサイトを有料制にするのでは。
- ・理事や会員の資源を投入すべきなのか
- ・勝てなかったから始まったプロジェクト ログータスクになれていない
  - 来年の日本選手権はログータスク
- ・勝つためのゴールへの意思統一ができていない段階でコストをかけても意味が無いのでは
  - 去年のエアリバの例を議論
- ・すでに確定している藤田、須江でまず実例を作ってみるのではどう？
- ・スポーツ委員会として選抜するのは、選定基準が曖昧で難しい
- ・連盟でできること 機材の呼びかけ 道具の集め FAIログーはアプリに変わる
  - ・パイバルチームの派遣についてはコストがかからなければスポーツ委員会としては賛成
  - ・コスト面については要検討
- ★高島さんおよび理事会への説明は飯盛委員長より
- ★スポーツ委員会としてはパイロットへのヒアリングを行う

■ 3. ロングチャレンジの表彰について

- ★規定通り、申請があった場合、表彰する
- ・江田さんからの中間報告を共有

■ 4. ジュリーを使わない大会 プロテストのついて

- ・（日本選手権において）競技者が異議を持った場合、大会側と決着がつかなかった場合、連盟を通してスポーツ委員会に意見が来る その後はスポーツ裁判になる
  - スポーツ委員会として回答をする必要がある
- ・ログーを使った場合のオートマッチックペナルティについて
  - ・誤差があった場合について
  - ・スコアミスはあったけど、明らかに飛び方が変わった
  - ・ペナルティに引っかけるべきところに、かからない事例もあった 逆もあった
  - ・ログーでのペナルティにおいて、フライトの安全性と誤差の影響と両方の側面を理解をしておいてほしい
  - ・オフィシャルの負荷は大きい（データ入力を別に入れる必要がある）
  - ・レンタル料は？ オペレーションコストもかかる
- ・ログーかオブザーバーか
  - ・気球の発展にはオブザーバーが有効（気球に携わる人口の裾野を広げる）
  - ・スポーツ委員長としては今回はログー使用だが、オブザーバー使用の大会を推奨したい

■ 5. Women in FAI

- ・NACを通してほしいという話で航空協会に連絡した
  - 折角FAIの有志が話が上がっているのであれば、もっと応援する立場でなにかできないか
- ・日本側からもっと積極的に働きかけていくべき

★一関に浩美さんが帰ってくるので話してみる

## ■ 6. 新メーリングリスト

- ★番号をつける
- ★Re:の位置
- ・ホームページのアドレス→文書が古い
- ★freemlのヘッダに追加
- ★連盟のMLに連絡（ヘッダなどの調整ができてから）

## ■ 7. ホームページ更新

- ★記録飛行年間表彰規定の更新  
こちらが新しい [http://www.jballoon.jp/jimu/pdf/teikan.pdf/26\\_record\\_hyosho.pdf](http://www.jballoon.jp/jimu/pdf/teikan.pdf/26_record_hyosho.pdf)
- ★2018年日本選手権の結果が入っていないの更新する
- ★2018のチャレンジの結果が反映されていない 古い資料が残っている
- ★オブザーバーチャレンジの項目追加
- ★ガス気球チャレンジの項目追加
- ★チャレンジの過去の結果はベスト10ぐらいまで載せる PDFで出してください
- ★お知らせの古い項目（2018以前は削除）
- ★Hot Air Balloon Rules 2017 →2019  
section(2015)国際標準競技規定和訳 →sectionIII
- ★CIA AX Model Event Rulesの内容が古い  
<https://www.fai.org/cia-documents>  
[https://www.fai.org/sites/default/files/axmer\\_2019\\_with\\_changes\\_0.pdf](https://www.fai.org/sites/default/files/axmer_2019_with_changes_0.pdf)  
[https://www.fai.org/sites/default/files/coh\\_2018\\_-\\_final.pdf](https://www.fai.org/sites/default/files/coh_2018_-_final.pdf)  
Safety and Education
- ★世界ランキング 過去のランキング 2015
- ★15 Apr 2019CIA Safety Handbook 2019

## ■ 8. 告知

- ・世界選手権2020についての告知はいつするのか？  
デッドラインはいつか？2020年1月31日が回答締め切り  
一度連絡→航空協会のサイン→提出
- ★告知開始は11月初旬
- ★立候補者の12月20日（金）に締め切りで公募
- ・Womenの締め切りは？まだレターが届いてないのでまだか。  
インビテーションが来てからすぐに公募？ちがう、同じように選考がある
- ★チャレンジの募集について、江田さんから再度告知

## ■ 9. チャレンジの賞品手配

- ★手配はこれから竹沢さん手配

## ■ 10. オブザーバー登録証

- ・もう印刷は開始している 変更点の確認は浩美さんが確認済み

## ■ 11. 予算

- ・8割ぐらいで推移

## ■ 12. パイバル計測器の現状

- ・パイバル計測器は5年ぐらいたって佐賀の世界選手権のときに一度メンテナンスに出している  
年明けに一度出す予定（概算5万～8万円ぐらい）

## ■ 13. 日本選手権トロフィー

- ・パネルを古い方から外してケースに張る
- ・トロフィーを磨く（委員長）

■ 14. 日本選手権の今後について

- ・次のことを考えていないと（開催地の裾野を広げるために）
- ・スコアリングがネックになっている
  - 質を担保しながら、スコアリングの難易度を下げる
- ・Web上でスコアリングができるとか
- ・「国際気球委員会（CIA）の発行する標準競技規定（AXMER）をガイドラインとして使用する」に縛れているのでは
- ・結局はグランプリまかせになっている
- ・日本選手権を開催するための支援がほしい
- ・費用増の理由（参加機数がプラスになるので、オブザーバーの費用、チーム出しにできなかった、スコアラも準備、日にちが増える）
- ・上土幌や茂木など他の場所は
- ・中間レベルの大会が少ない
- ・候補地をピンポイントで育てる（地域や競技委員長）

■ 補足

スポーツ委員会終了後、東北で行われた学生選手権の内容について一部のメンバーに共有

以上